

# 『新版 雪氷辞典』正誤表

(2014年3月15日初版第1刷)

2016年6月6日現在

- 18頁：エドマ〔層〕 英語  
(誤) yedoma, edoma (正) yedoma(R), edoma (R)
- 24頁：解凍沈下 本文2行目  
(誤) 体積が減少する (正) 体積が減少する
- 82頁：人工雪 本文2行目  
(誤) 1942年 (正) 1936年
- 101頁：雪上木 英語2行目  
(誤) of snoe cover (正) of snow cover
- 126頁：チンダル像 本文2～3行目および文献  
(誤)・・・チンダル(1885)によりはじめて観察された。  
(正)・・・チンダル(1858)によりはじめて報告された。  
(追加)本用語の末尾に以下の文献を追加。  
【文献】Tyndall, J.,1858: On some physical properties of ice. *Philosophical Transactions*, 148, 211-229.
- 190頁：吹雪の発達 本文3行目以降  
(誤)その際、吹雪の高さ、吹雪輸送量、雪粒子空間密度などは次第に増えるが、ある距離ではおよそ一定値になり、平衡状態となる(飽和に達するという場合もある)。そして時間の経過とともに定常状態に達する。平衡状態に達する・・・  
(正)その際、飛雪流量、飛雪空間密度などは次第に増えるが、ある距離でおおよそ一定値になる。そこでは、吹雪は平衡状態になっていて、同時に飽和状態となっていることもある。平衡状態に達するまでの・・・  
(追加)本文の末尾(・・・観測例がある。)に以下を追加。  
飛雪流量、飛雪空間密度などに時間的な変化がない場合は定常状態と呼ばれる。
- 216頁：雪 本文2行目  
(誤)大気中の塵や海塩粒子などを核として  
(正)大気中の土壌起源の粘土鉱物を核として
- 後付け：『新版 雪氷辞典』編集委員会、下から3行目  
(誤)佐藤篤司(防災科学技術研究所)  
(正)佐藤篤司(防災科学技術研究所、前学術委員長\*)